



事務局総務広報委員会

委員長 大崎 裕史

【所信】

本年、私たち一般社団法人栃尾青年会議所は、創立50周年という大きな節目の年を迎えるました。1968年の創立より半世紀もの長きにわたり、先輩諸氏は栃尾地域の活性化を図ると共に、地域の宝である青少年への育成事業に積極的に取り組むなど、様々な活動にご尽力されてこられました。私たち現役メンバーは、先輩諸氏が培つてこられた長い歴史とその実績に誇りをもち、学び、そしてまた新たな一步を進めていかなければなりません。

現代社会では急速なインターネット技術の普及により、世界中の誰もが様々な情報を手軽に入手する事が出来るようになりました。誰でも簡単に閲覧することのできるものだからこそ、私たちの活動を伝播する手段として非常に重要なツールであると考えます。栃尾青年会議所は今までにもインターネット上にある様々な手段を用いて活動を伝播してこられました。先輩諸氏がこれまで行ってこられた広報活動を継承することは勿論、更に本年はソーシャル・ネットワーキング・サービス（以下、SNS）などの各種情報伝達手段を駆使し、動画を交えた私たちの地域貢献活動を多数紹介していきたいと考えます。同時に広報誌「城山」の発行も続けていきます。広報紙は誌面の文字を通じて執筆者の熱い想いをより詳しく読者へと伝える事の出来るSNSとは別の性質を保有するツールであり、単に長い歴史があるものだからというだけでなく、その必要性があるからこそ受け継いでいかなければならない伝統であると考えます。

私たちが事業を構築していく上で、より魅力溢れる事業を企画実施するためには、何度も熱意を込めた議論を繰り返し、多角的な意見をぶつけ合う他にないと考えます。質の高い議論を行うためには、会議の円滑な設営と運営が必須条件であると考えます。会議に関わる全てのメンバーの貴重な時間が無駄とならないよう、事務局総務広報委員会一同、誠心誠意努めて参ります。

栃尾青年会議所は本年17名という少人数でのスタートとなり、各種事業を実施する上で今後の活動が危ぶまれているのが現状です。私たちが次代へと歩みを進めるためには、最重要課題である会員拡大に注力していかなければなりません。会員拡大を行う上で、私たちの活動をより多くの世代へ伝播していくことは必要不可欠であり、そのためにもまずは私たち現役メンバーが会の魅力を、また地域のために活動することの喜びを再確認しなければなりません。そしてそれを、栃尾地域の皆様に伝え賛同を得ることが新たな同志との出逢いに繋がってくるのではないかと考えます。栃尾青年会議所を未来へ繋げるためにも委員会メンバー一丸となり、一人でも多くの「喜びを分かち合える同志」を見つけることに尽力して参ります。

最後になりますが、与えていただいた責務を全うするため精一杯務めさせていただきま

すので、引き続き皆様からのご指導ご鞭撻をいただくと共に、尚一層のお力添えを賜りたく、ご協力の程何卒よろしくお願ひいたします。

【事業計画】

- | | |
|--------------------|---------|
| ○会員手帳の作成 | [第5号事業] |
| ○各種大会、事業、会議への引率 | [第4号事業] |
| ○各会議、諸事業の出欠、運営管理 | [第5号事業] |
| ○各事業の記録、保管 | [第5号事業] |
| ○財務に関する事項 | [第5号事業] |
| ○広報誌「城山」 | [第4号事業] |
| ○ホームページの運営管理 | [第4号事業] |
| ○新年会の開催 | [第4号事業] |
| ○卒業スピーチ、卒業セレモニーの開催 | [第5号事業] |
| ○Forum 2 1 合同例会 | [第4号事業] |
| ○メンバーの資質向上事業 | [第2号事業] |
| ○会員拡大 | [第5号事業] |
| ○理事会並びに総会の議事録作成 | [第5号事業] |
| ○その他 | |



喜び創造交流委員会

委員長 平林 雄太

【所信】

私は、栃尾で生まれ、栃尾で育ち、現在家業に携わり 7 年の月日が経ちました。何か故郷である栃尾の力となればと思い、栃尾青年会議所の一員としてスタートして早 2 年。自らの力不足を感じつつも家族や周りの皆様の支援、厳しくも温かい助言を下さる先輩諸氏、文句も言わず送り出してくれる事業所の協力のおかげで充実した日々を過ごさせていただいております。

本年度、私が喜び創造交流委員会委員長として活動させていただけることに当たり、今までの自分の活動、受けた御恩、経験させていただいたことを顧みつつ、喜び創造交流委員会としての重責、本質を受け止めることで委員長としての自覚をもって責務を全うすることに「喜び」を感じ、その活動を通してメンバーや地域に「喜び」を届けるお手伝いができると考ておりまます。

栃尾は日本でも有数の豪雪地帯であり、その影響は生産や生活に影を落としてしまうと思われがちです。しかしながら、厳しい冬季においても「喜び」「楽しみ」を見つけ、それを活力につなげようという先人達のおかげで、私たちは今を生きることができているのです。本年度の遊雪まつりではそうした先人達に想いを馳せつつ、雪を最大限に「楽しむ」ことができるような事業の企画・運営を行います。また事業を通して、参加していただいた地域の方々に、みんなで一つの目標に向かって成し遂げようとする連帯感や全力で取り組めた達成感に「喜び」を感じていただけると確信しております。

私たち栃尾青年会議所のメンバーが今日 JC 活動に勤しみ、社業に情熱を傾けることができる原因是 50 年の長き間、先輩諸氏が築いてくださった礎と、今そして未来を支えてくれる家族や仲間のおかげであることはいうまでもありません。しかし、玉石混交の情報が押し寄せる状況からの的確かつ迅速な取捨選択を迫られる現代社会において、それらは失念しがちなこともあります。交流事業においては今一度そういった思いに立ち返り、先輩諸氏の経験や歴史を語らいというかたちで直接触れ合うことで、今ここに自分が存在できることに「喜び」を感じ、更なる歩みを進めるべく自らの研鑽に努められると考えます。また、家族とのつながりを再認識していただくことで私たちが得た「喜び」をご家族の方々に「楽しみ」として還元させていただき、未来へとつながる「喜び」と「楽しさ」を生み出し続けるための原動力となるでしょう。

近年栃尾青年会議所のメンバーは減少しつつありますが、それぞれ自らの長所を生かし、足りない部分を互いに支え合いながら活動して参りました。しかし、会員が増えることでより精密に、より落ちなく、よりハイクオリティな事業が展開できると考えます。当委員会においても積極的に会員拡大を図り、「喜び」を分かち合う仲間のつながりを太く広くつなげていきます。私も委員長としてできる限りのことを行い、できないことをできるに変えるた

めに誰よりも貪欲に行動して参ります。

今回委員長という職を務めさせていただくに当たり、委員会運営や踏襲してきたやり方がわからないことがあるかもしれません。しかし、わからないからこそできる発想やアイデアで切り開くこともできるはずです。この度の機会を成長できるチャンスと捉え、本年度松生理事長の掲げる LOM スローガン「Pleasure ~人材のため、地域のために尽くすことが私たちの最大の喜び~」のもと、喜び創造交流委員会として栃尾青年会議所の活動ができることに「喜び」を感じ、「喜び」に対する感謝の気持ちを事業や活動として還元できるよう邁進して参ります。栃尾青年会議所メンバーの皆様、「喜び」と「楽しさ」にあふれた栃尾を目指して一丸となり、共に助け合い、共に励まし合い、共に笑い合いましょう。この1年間、何卒ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

【事業計画】

- 遊雪まつり（委託事業） [第1号事業]
- シニア交流パーティー [第4号事業]
- ファミリーパーティー [第5号事業]
- メンバーの資質向上事業 [第2号事業]
- 会員拡大 [第5号事業]
- その他



JC 50周年特別事業委員会

委員長 加藤 泰穂

【所信】

1968年10月9日、夢と希望に燃える若者たちにより、この栃尾の地に青年会議所が創立されました。創立以来、「明るい豊かな社会」の実現のため、多くの先輩諸氏や地域貢献に携わる多くの方々が流された汗と涙は、一滴一滴が集まり凝縮され、地域活性の意思のもと、代々受け継がれてきました。そして2019年度、私たち栃尾青年会議所は創立50周年を迎えます。私たちはこの記念すべき年を迎えるにあたり、これまでの先輩諸氏や関係する諸団体の皆様の意思、活動に敬意を表すとともに、今も確実に燃やし続いている情熱を示さなくてはなりません。

「創立50周年」、言葉にすると短く簡単ですが、そこには私たちの想像もつかない喜怒哀楽に満ちた出来事があったかと思います。JC 50周年特別事業委員会では、これまで栃尾地域の活性化にご尽力されました先輩諸氏、行政、各諸団体、地域の皆様の活動や歩みを振り返り、地域に必要な団体として受け継がれた伝統と、その責任の重みを私たち現役メンバー全員が強く感じとれるような委員会運営を目指して参ります。そのなかで、50周年特別事業をこれまでの栃尾青年会議所を築き、支えていただいた皆様への感謝を示す場ととらえ、最大限の敬意をもって事業運営に取り組み、ご参加された皆様に心から喜びを感じていただける事業を展開して参ります。

地域の更なる発展と、希望溢れる未来を考えたとき、次代を担う子どもたち、若者たちのために私たちは何をしてあげられるのでしょうか。そのニーズは多様化し、一概にこれといって簡単に決めるることは難しいかもしれません。しかし私たちはそれを見極め、有意義な活動や運動として展開していくかなければなりません。地域に根付く活動団体としての強みを活かし、英知と勇気と情熱をもって展開していくば、地域の宝である子どもたち、若者たちにその熱意が伝わると確信します。歴史あるJCスクールを通して、この栃尾地域が今以上に元気になるよう、私たちが率先して様々な視点から取り組み、事業に携わるすべての皆様が楽しみ、記憶に残るような事業を企画、運営して参ります。

これまで栃尾地域の発展に絶え間ない努力と情熱を注ぎ込まれてこられた先輩諸氏に習い、私たちも全力をもって地域の活性化に取り組む必要があります。そのためには個人のスキルアップと、志を同じとする仲間の協力が必要不可欠です。様々な会議所活動を開いていくなかで己を磨き、互いに高めあい、恐怖に打ち勝ち、守るべきものをしっかりと見定める精神を養うことで、より質の高い事業を構築できるはずです。日々移り行く社会情勢のなか、決して立ち止まることなく共に胸を張って生きていける同志を集うべく、当委員会でも会員の資質向上と会員拡大に尽力していきます。

最後に、この記念すべき年にJC 50周年特別事業の委員長に拝命していただいたことを誇りに思い、日々を大切に全力で取り組んで参ります。また、本年度松生理事長が掲げる

柄尾青年会議所 LOM スローガン「Pleasure～人材のため、地域のために尽くすことが私たちの最大の喜び～」のもと、私たち JC 50 周年特別事業委員会も、柄尾地域に携わるすべての皆様の笑顔と喜ぶ姿を思い描き、記憶に残る素晴らしい 50 年の節目となるよう、一丸となって活動していきますので、皆様ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願ひいたします。

【事業計画】

- 50 周年記念式典 [第 4 号事業]
- 50 周年記念祝賀会 [第 5 号事業]
- JC スクール（50 周年特別事業） [第 2 号事業]
- メンバーの資質向上事業 [第 2 号事業]
- 会員拡大 [第 5 号事業]
- その他